



# 大村市長に松本崇氏が再選されました。

## 市民が主役、対話の市政

### 「福祉のまち 日本一を目指して」

#### 政策宣言

- ① 財政基盤を確立し安定した都市経営
- ② 市民の目線でのまちづくり
- ③ 大村の将来を担う子どもたちの育成
- ④ 高齢者や障がい者など全ての市民が安心して暮らせるやさしいまちづくり
- ⑤ いきいきと働ける豊かなまちづくり
- ⑥ 将来の発展に期待がもてるまちづくり



当選後の登庁を出迎える市民の皆さんや職員(10月4日、市役所玄関)



松本崇市長へ中嶋選挙管理委員会委員長から当選証書を交付(10/4)

10月3日、大村市長選挙が行われ、松本崇氏が第20代の大村市長に再選されました。  
 10月4日、市民の皆さんや職員の歓迎を受けながら登庁し、大村の将来について語りました。



第20代大村市長  
松本 崇

## 就任あいさつ

このたび、市民の皆さまの温かいご支援をいただき、第20代の大村市長として引き続き市政を担わせていただくことになりました。

改めて、与えられた職責の重さに、身の引き締まる思いと決意を新たにいたしているところであります。

私が信条としている「市民が主役」「対話の市政」を基本に、「福祉のまち 日本一」を目指し、市民の皆さまの信頼と期待に応えるべく、誠心誠意で市政運営に取り組んでまいります。

私は、これまでの2期8年間、財政再建団体に陥ってもおかしくない大変厳しい財政状況であった大村市を、何としてでも立て直したいという思いで、行政改革・財政健全化に全力で取り組んでまいりました。

その結果、赤字続きであった競艇を黒字化に転換し、20年度からは市の一般会計へ繰り入れができるようになりました。

また、全国の多くの公立病院が経営難に陥っている中、大村市立病院についても、医師や看護師などの理解と協力で、平成20年度からいち早く公設民営化に踏み切ることで、現在は地域の中核的総合病院「市立大村市民病院」として再生し順調な運営を実現しています。

このほか、さまざまな事業の見直しなどを行ってきた



結果、当面の目標を達成することができ何とか立ち直りをみせてきておりますが、まだまだ厳しい状況は続いており、今後も引き続き行政改革・財政健全化に取り組んでまいります。

一方、九州新幹線西九州ルートの着工、国道34号線の拡幅、都市計画道路久原池田線の開通、活水女子大学看護学部の開設など市の発展につながる新しい動きも数多くありました。

私は、今回、6つの政策を大きな柱としたマニフェスト（政策宣言）を掲げております。

- 一、財政健全化と行政改革など「財政基盤を確立し安定した都市経営」
- 二、住民主導型地域活性化、市民のまごころを原資としたボランティア銀行の創設、親切で身近な市役所作りなど「市民の目線でのまちづくり」
- 三、親と子が気軽に楽しめる親子の集いの広場開設、給食センターの建設、子育て支援のための「子ども夢基金」の創設など「大村の将来を担う子どもたちの育成」
- 四、公共施設のバリアフリー化、グラウンドゴルフなどを楽しめる環境整備など「高齢者や障がい者など全ての市民が安心して暮らせるやさしいまちづくり」
- 五、工業団地の造成をはじめ企業誘致による雇用促進、市街地再開発と中心市街地活性化、地場産品のブランド化など「いきいきと働ける豊かなまちづくり」
- 六、新幹線開業に向けた活力あるまちづくり、都市計画道路や国道の早期整備、多目的スポーツ広場の整備、県立図書館の誘致など「将来の発展に期待がもてるまちづくり」であります。

私は、今後4年間、これらの政策を実現させ、市民の皆さまの生活の安定、豊かさが実感できる大村市とするため、全力で取り組んでまいります。

市民の皆さまのご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。就任のあいさつといたします。